

## 楠正成・正行像賛の成立の過程と歴史的背景

四條躰楠正行の会 扇谷昭作成 2015.08.10

西暦	和暦	朱舜水	貝原益軒	安東省菴	徳川光圀	前田綱紀
1600	慶長 5 年	浙江省に生まれる				
1622	元和 8 年			生まれる		
1628	寛永 5 年				生まれる	
1630	7 年		生まれる			
1643	20 年			「三忠傳」著す		生まれる
				京都で松家尺五に師事、貝原益軒・木下順庵等と学ぶ		
1645	正保 2 年	初めて長崎に赴く			「大日本史」に着手	
1657	明暦 3 年			入徳、独立と交誼		
1658	万治 1 年	入徳に手紙		入徳宛の手紙見る		
1659	万治 2 年	長崎に赴き、投化する		舜水に師事		
1660	万治 3 年	柳川から来た省菴と会う				木下順庵を禄す
		安東省菴の「三忠傳」を百読し、正成の誠忠を知る。		舜水に三忠傳を示す		狩野探幽に、楠公父子訣別図を書かせる。賛文を舜水に依頼する。木下順庵、安東省菴の交誼を通じ。
		<b>この頃、楠正成像賛(第二首)(三忠傳に収録)と楠正行像賛を記す。</b>				
1663	3 年	長崎で大火に遭う				
1664	4 年	光圀より江戸招聘を受ける	湊川に詣り、楠公墳墓の塚荒廃を憂い、楠公碑建立を企てるが、謙譲の心から取りやめる。		小宅生順を舜水のもとに遣わす	
1665	5 年	江戸、水戸に入る		舜水、江戸に向かう途上、省菴宅に	舜水招く	

				数日泊まる。		
		第一首と第二首の間に楠正成像賛(第三首)(朱舜水全集に収録)を記す？				
1670	10年	11月21日、狩野探幽作・楠公父子訣別図の楠正成像賛文(第一首)を記す。				楠公父子訣別図の賛文が完成し、軸物として残る。
1672	12年					室鳩巢を禄す
1679	延宝7年				南朝史料の調査活動に着手。史料調査を踏まえ、南朝正統の信念固まる。京都、吉野に。	
1680	8年				同、河内、奈良、高野、熊野、吉野に。	
1681	天和1年			吉野朝を正統とする「日本史畧」著す	同、京都、奈良に。	
1682	2年	没。4月、永眠する				木下順庵、幕府に出仕
1684	貞享元年			安東守約省菴謹撰「三忠傳」(巻之下・楠正成公世子正行公附)を出版。楠正行像賛文載る。		
1685	2年		6月、水戸の儒臣、佐々宗淳、益軒を訪ねる	6月17日、佐々宗淳、省菴宅に泊まる。	同、九州、中国、北陸、京都に。	
			益軒、省菴、佐々、それぞれ楠公の誠忠と顕彰を話題に論じ合う。佐々、江戸にもどり光圀に報告。			
1686	3年				同、河内、和泉に。	
1687	4年				同、伊勢、京都に。	
1689	元禄2年				同、京都、奈良に。	
1692	5年				同、河内、京都、奈	

					良に。	
					徳川光圀、湊川に「嗚呼忠臣楠子之墓」を建立。墓碑裏面に、楠正成像賛（第一首）を岡村元春書で刻む。	
1700	13年				没。	
1701	14年			没。		
1714	正徳4年		没			
1715	5年	徳川光圀輯・徳川綱條校「舜水先生文集」（京兆書舗柳枝軒）を出版。楠正行像賛文載る。				
					綱條「大日本史」刊行。	
1724	享保9年				没。	
1912	明治45年	徳川光圀輯・徳川綱條校「朱舜水全集」（稲葉君山編・東京文會堂書店）を出版。楠正成像賛三首、楠正行像賛一首が載る。				

※本資料は、木下英明「朱舜水の楠正成像賛三首について」（茨城県立歴史館主席研究員・平成8年講座）論文、「柳川人から見た安東省菴とその著三忠傳楠正成公傳世子正行公附読み下し文」（柳川山門三池教育会編）、「徳川光圀」（吉川廣文館・人物叢書）・「前田綱紀」（前に同じ）を出典に、扇谷がまとめたもの。